

2018年1月4日

九州から日本を動かす! Move Japan forward from 九州! (45)

新年あけましておめでとうございます。

福岡雙葉学園の理事長としての思いを書いています。

カトリック信者である私は、カトリックのお役に立ちたいという気持ちはありましたが、10年ほど前に福岡雙葉学園の前理事長であるシスター金森から、このポスト就任のご依頼があった時にはどうしようかと悩みました。しかし、亡き母からの「やりなさいよ」というメッセージも感じ、引き受けました。

ここでも私は使命を作りました。理事長としての私の思いは、「神の恵みに感謝し、地球社会の一員であることを自覚し、行動する人」づくりです。“With God’s blessing ,be responsible for the state of the world and the people who live in it.” という使命です。感謝の心を持ち、グローバル対応していける力のある人材作りの教育をしていきたいと考えています。

当初は「グローバルシティズンづくり」と言っていましたが、今は「グローバルシティズンによるグローバルシティズンづくり」へと変化しています。すなわち、教える先生方の視野も拡大して貰い、世の中の流れや多くの新しい体験を通して、コミュニケーションツールとしての英語力、発信力、発言力が重要である事を知る教員を増やすことで、若者を育成していきたいのです。

ビジネスマンとして、国際社会におけるプレゼンスの低下から日本のチャンスが減っていること、それ以上に日本人の英語力の低さの評価が世界で、特にアジアで固まってしまっているのを感じます。そこで、このように子どもの頃からしっかりと英語教育をしていき、成功事例を作り発信していくことで、日本の英語教育の先導校として福岡雙葉学園の存在を示していこうと思っています。

福岡雙葉小学校では、6年前からグローバルコミュニケーションコースを新設し、小学校の1年生から英語漬けのイメージ授業を始めました。そこでは英語の授業のみならず、算数もネイティブの外国人教師が英語で教えます。また、3年生からは理科も英語で教えています。

素晴らしいことに、先生方皆さんのご苦勞の甲斐もあり、現在の生徒の英語力は相当に高いものとなっています。生徒同士でも一部英語で話をするようになりました。それもかなり積極的に発言をしています。

他の科目の先生方によると、グローバルコミュニケーションコースの生徒は意見を持ち、質問もする子が多く、黙って聞く一方だけの生徒との違いがあると言っています。それは “why” “how” といった質問をネイティブの先生がコンスタントに使うからではないかという分析をしている先生もいました。

何か意見を聞かれた際に応えることが出来ない日本人が多いのです。何か質問はありませんかという時に、文法やほかのことが頭をよぎり、どうも聞く力が不足しているのを外国人との交流の場で強く感じます。そのため、この英語イマージョンの教育成果は英語力のみならず、インプット力、アウトプット力の強化にも有効だと思います。そして、キリストが求める相手を大切に思う気持ちを教えていきます。

麻生 泰